

〔科目名〕 地域みらい特殊講義Ⅱ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 展開科目
〔担当者〕 柏谷 至 KASHIWAYA Itaru	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業開始前・終了後各 30 分程度 場所: 非常勤講師控室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 この授業のテーマは、「エネルギーから見た地域社会論」です。 エネルギーは、私たちの生活に必要な不可欠な要素であり、エネルギーの利用形態によって地域社会のありようは大きく変化します。近年では、地球温暖化や原発事故のようなグローバルな課題だけでなく、エネルギー費用が地域外に流出することによる地域経済への影響なども問題視されるようになってきました。こうした状況のもとで、地域にあるエネルギー資源を活かし、地域に利益が残るかたちで利用する「エネルギー自立」の考え方が広まりつつあります。 青森県は、冬期間の暖房を中心にエネルギー消費量が全国より多く、特に化石燃料への依存度が高いという特徴があります。豊かな自然環境を背景に再生可能エネルギーのポテンシャルが高い一方で、地域外資本による開発事例が多く、地域社会に利益が十分に還元できていないことも課題です。 授業担当者は環境社会学者として教育・研究に従事しながら、「自然エネルギーを通じた循環型社会の実現と地域の自立」をミッションとするNPOの理事長を務めています。この授業では県内外の事例を紹介しながら、地域のエネルギー自立に向けた現状と課題、将来展望を考えます。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 エネルギーというと、科学技術の問題（いわゆる「理系」の人が考えること）と考えられがちですが、地域のエネルギーを考える際には、人々の意識から生活、組織、経済や制度・政策にわたるさまざまな側面を、トータルに考える必要があります。この授業は「特殊講義」のひとつとして、地域の社会・経済・政策に関して皆さんが今まで学んできたことを活用し、地域の未来について自ら考える機会と位置づけられます。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 最終目標: ・エネルギーの観点から地域の現状・課題を把握し、解決策を提案できるようになる 中間目標: ・エネルギーと地域社会との関係についての基本的な知識を身につける ・「エネルギー自立」の考え方とその手法を理解する ・自らが住む地域の現状や課題を、エネルギーの問題と結びつけて考えることができるようになる		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 2021 年度の授業評価をうけ、講義中の音響設備を適切に利用するなどして、学生の皆さんが理解しやすい講義に努めていきたいと思っています。		
〔教科書〕 特に指定しません。		
〔指定図書〕 特に指定しません。		
〔参考書〕 枝廣 淳子 2018『地元経済を創りなおすー分析・診断・対策』岩波書店。 藻谷 浩介・NHK 広島取材班 2013『里山資本主義ー日本経済は「安心の原理」で動く』角川書店。 田中 信一郎 2018『信州はエネルギーシフトするー環境先進国・ドイツをめざす長野県』築地書館。		
〔前提科目〕 特に指定しません。		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各回の授業では、次回の授業の予習となる課題を出します。課題の内容としては、テーマに関する短いテキストや動画を見たり、皆さんの身近なエネルギーについて調べたりして、ワークシートに記入して提出してもらう予定です。		

また、毎回の授業の最後には、その日の講義内容に関する質問の時間を取ります。質問者には、質問内容とそれへの答え、質問をしてみたの感想を提出していただきます。15回の講義の中で、2回以上質問することを義務づけます。 この授業の最終評価物として、再生可能エネルギーや省エネルギーを活用して地域の課題を解決するための企画提案を、レポートとしてまとめてもらいます。15回の授業の後半は、レポート作成に向けたワークシートを作成・提出してもらいます。 以上の4点、すなわち(1)予習ワークシートの提出、(2)授業中の質問、(3)企画提案ワークシートの提出、(4)最終レポートの内容を総合して、この授業の評価とします。	
〔評価の基準及びスケール〕 各評価項目は、予習ワークシートの提出10点、授業中の質問20点、企画提案ワークシートの提出10点、最終レポートの内容60点で点数化します。なお、最終レポートは、(1)テーマ設定の独創性、(2)企画としての実現可能性、(3)レポートの文章力と資料活用の適切性、から評価します。 100点満点の評点を、大学の成績評価基準に従ってA～Fのグレードに評価します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この授業では、単にエネルギーに関する知識を伝えるだけでなく、地域の課題に取り組むことの面白さや難しさを学生に体験してもらいたいと思っています。そのため、授業方法として講義形式のほか、ワークショップや学生による企画立案・プレゼンテーションを取り入れる予定です。 学生には、授業中および授業外学習での主体的な参加を期待します。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーから地域社会を考える(イントロダクション) 内 容：エネルギー自立を目指す地域の取り組みの実例を紹介し、この授業全体のねらいを示すとともに、授業の進め方や学修内容、評価方法などについてイントロダクションを行う。
第2回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーと地域社会(1)・エネルギー自立の考え方 内 容：エネルギー自立の考え方が登場してきた背景や先駆的な実践例を紹介し、エネルギー自立の基礎概念について学ぶ。
第3回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーと地域社会(2)・風力 内 容：代表的な再生可能エネルギーとしての風力発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第4回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーと地域社会(3)・太陽光と太陽熱 内 容：代表的な再生可能エネルギーとしての太陽光発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第5回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーと地域社会(4)・バイオマス 内 容：代表的な再生可能エネルギーとしてのバイオマスエネルギーの特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第6回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーと地域社会(5)・省エネルギー 内 容：代表的な省エネルギーの取り組みとして、住宅の高気密・高断熱化によって快適性と省エネルギーとを両立させる取り組みについて学ぶ。
第7回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーと地域社会(中間まとめ) 内 容：これまでの講義を振り返りながら、エネルギーと地域社会との関わりや、再生可能エネルギー・省エネルギーを地域課題の解決に結びつける方法論を学ぶ。
第8回	テーマ(何を学ぶか)：ワークショップ(1) 内 容：ワークショップを通じて、再生可能エネルギーと省エネルギーを地域課題の解決に役立てる手法を自ら体験する。

第9回	テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(1) 内 容: 地域事業の企画・立案の出発点となる地域資源の種類や規模、資源利用に当たっての制約条件について学ぶ。
第10回	テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(2) 内 容: 地域エネルギー事業を運営していく際のビジネスモデルや収益構造・コスト構造や、資金計画について学ぶ。
第11回	テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(3) 内 容: 地域エネルギー事業を運営する主体と組織形態、ステークホルダーとの関係、法的規制と政策について学ぶ。
第12回	テーマ(何を学ぶか): ワークショップ(2) 内 容: ワークショップを通じて、最終レポート作成に向けた企画のアイデア出しと相互評価を行い、エネルギーを通じた地域課題の解決を実践するためのトレーニングをする。【企画提案ワークシート提出日(予定)】
第13回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(1) 内 容: 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る。
第14回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(2) 内 容: 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る(第14回の続き)。
第15回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(3) 内 容: 前回までに発表された地域エネルギー事業プランを振り返りながら、この授業で学んできたエネルギーと地域社会との関わりについて、総括的な議論を行う。
試験	レポート